

## 情報サービス産業における労働者の Sense of Coherence、労働職場要因、精神健康との関連性の検討

### 【背景】

健康生成論とは、健康はいかにして回復され保持され増進されるのかという観点から健康要因の解明と支援・強化を目指す考え方である。その中心概念である Sense of Coherence(以下、SOC)とは、腑に落ちる感覚や筋道が通っている感覚のことをいう<sup>1)</sup>。ストレス対処力概念である SOC の概念が提唱されてから SOC をトピックにした研究は年々増加している。これらの実証研究は主に SOC を説明変数においた SOC の効果に関する研究がほとんどである。多くの SOC の効果に関する報告が蓄積する一方、SOC がどのような要因により規定され、変化するかという観点からの研究は極めて限られている。

### 【目的】

本研究では、情報サービス産業従事者を対象とし、SOC の変化に影響する労働職場要因を明らかにすることを目的とした。また、これらの要因が精神健康へ及ぼす影響について縦断的データを用いて検討した。

### 【方法】

労働組合協議会を經由し情報サービス産業の企業に質問紙を配布した T1(ベースライン調査)は 2009 年に、T2(追跡調査)は 2011 年に行った。T1、T2 両方の質問紙に回答し結合可能であった 142 部を分析対象とした。

調査項目は、基本属性の他に、精神健康度、ストレス対処力 SOC、労働職場要因として仕事要求度、仕事裁量度、職場風土をたずねた。また、2 回目の調査の際には追跡期間のうちに経験したライフイベントの有無と東日本大震災の影響の有無についてたずねた。

分析方法は基礎集計の他に、SOC の変化に影響する労働職場要因の検討には階層的重回帰分析を行った。さらに、これらの心身の健康への影響を含めた関連性を検討するために共分散構造分析を行った。

### 【結果】

T1 平均年齢は  $32.28 \pm 7.92$  歳で 74.6%が男性であった。SOC の変化量の平均は  $-0.90 \pm 9.58$  であった。異動や昇進・降格等の職場に関するライフイベントの有無で SOC の変化量を比較したが有意差は見られなかった。同様に東日本大震災の影響の有無で比較したが有意差はなかった。

SOC の合計点を従属変数とした重回帰分析では、仕事裁量度の変化が職場風土の変化を媒介して SOC の変化に影響することが示された。SOC の下位項目の変化量ごとに同様の分析を行ったところ、有意味感のみ職場風土の影響が認められたが、把握可能感と処理可能感は労働職場要因を含めどの変数の影響も認められなかった。

次に、労働職場要因と SOC、心身の健康との関連性を共分散構造分析にて検討したところ、職場風土は SOC を介してのみ精神健康度に影響し、仕事裁量度は直接的に精神健康度に影響を及ぼすことが明らかになった。仕事要求度の影響は SOC、精神健康度ともに見られなかった。

## 【考察】

今回検討した SOC に影響する労働職場要因のうち、重回帰分析及び共分散構造分析ともにもっとも影響が大きかったのは職場風土であった。海外の先行研究<sup>2, 3)</sup>の組織要因が SOC に影響することを示唆した結果を支持するものと考えられる。特に今回は今まで検討が望まれてきた心理社会的職場特性として職場風土の検討を行ったため、SOC 向上に向けた具体的示唆を得ることが出来たと思われる。仕事裁量度・要求度に関しては先行研究<sup>4, 5)</sup>及び横断調査の結果と異なり直接的効果は見られなかったが、一方で本研究と同様に関連がなかったと報告している先行研究<sup>6)</sup>もあるため、さらなる検討が望まれる。

SOC と精神健康との関連性については先行研究<sup>7)</sup>で示されている結果を支持するものであった。職場風土が精神健康度に対し SOC を介した間接効果のみ有していた点を明らかにしたことは職場環境と精神健康の関連性を示した先行研究<sup>8)</sup>のメカニズム解明の一助となったと考えられる。

## 【結論】

本研究は情報サービス産業の労働者を対象とし、SOC、労働職場要因、精神健康の関係について2年間の追跡データを用いて検討した。その結果、SOC の変化には職場風土が影響すること、さらに職場風土は SOC を介して精神健康度に影響することが明らかになった。職場風土の改善は、個人のストレス対処力を高め、さらに精神健康にも寄与する可能性を示唆した。

## 【参考文献】

1. Antonovsky A, 山崎喜比古, 吉井清子(監訳). *健康の謎を解く—ストレス対処と健康保持のメカニズム—*. 東京: 有信堂高文社 2001.
2. Feldt T, Kinnunen U, Mauno S. A mediational model of sense of coherence in the work context: a one-year follow-up study. *J Organ Behav*. Jun 2000;21(4):461-476.
3. Albertsen K, Nielsen ML, Borg V. The Danish psychosocial work environment and symptoms of stress: the main, mediating and moderating role of sense of coherence. *Work & Stress*. 2001;15(3):241-253.
4. Holmberg S, Thelin A, Stiernstrom EL. Relationship of sense of coherence to other psychosocial indices. *Eur J Psychol Assess*. 2004;20(4):227-236.
5. 戸ヶ里泰典. ストレス対処能力 Sense of Coherence の抑うつ傾向ならびに心理社会的な職場環境との因果関係の検証—構造方程式モデリングを用いた検討. *東京大学社会科学研究所 パネル調査プロジェクトディスカッションペーパーシリーズ*. 2009.
6. Feldt T, Kivimaki M, Rantala A, Tolvanen A. Sense of coherence and work characteristics: A cross-lagged structural equation model among managers. *J Occup Organ Psych*. Sep 2004;77:323-342.
7. Eriksson M, Lindstrom B. Antonovsky's sense of coherence scale and the relation with health: a systematic review. *J Epidemiol Community Health*. May 2006;60(5):376-381.
8. Piirainen H, Rasanen K, Kivimaki M. Organizational Climate, Perceived Work-Related Symptoms And Sickness Absence: A Population-Based Survey. *J. Occup. Environ. Med*. 2003;45 (2):175-184.